

知略対決!

徳川家康 VS 伊達政宗

武将から
ビジネス成功の
ヒントを学ぶ

加来 耕三 氏 監修



第1章

はじめに

歴史の知略からビジネスの成功を学ぶ

現代のビジネス環境は、急速な変化と激しい競争の連続です。企業が持続的に成長するためには、正確な情報をもとにした意思決定が不可欠となります。この点において、戦国時代の武将たちが行った戦略と現代のデータ活用には、多くの共通点があります。

歴史を振り返ることで、現代の経営に活か

る貴重な教訓を得ることができます。特に、データが企業の競争力を左右する時代において、情報をどのように収集し、分析し、意思決定に活かすかは極めて重要なテーマです。

徳川家康と伊達政宗。戦国時代において異なる戦略を持ちながら、それぞれの強みを活かし歴史に名を残した二人の武将は、現代の経営に

も大きな示唆を与えてくれます。家康は徹底した情報収集と長期的視野を持った戦略で天下統一を成し遂げ、一方の政宗は俊敏な意思決定と独自の発想で困難な状況を乗り越えました。

この e-book では、彼らの戦略を「データ活用」という視点から紐解き、現代のビジネスに活かせるヒントを探ります。

目次

第1章	はじめに.....	2
第2章	徳川家康 — 盤石な基盤を築いたデータ経営	3
第3章	伊達政宗 — 俊敏な意思決定と挑戦のデータ活用	4
第4章	データ活用の「天下統一」戦略 — 両者の強みをビジネスに活かす	5
第5章	データ活用を成功させるための ツールと実践法	6
第6章	まとめ	7

監修

かく こうぞう
加来 耕三
歴史家・作家



奈良大学文学部史学科卒業。学生生活を経て、昭和59年(1984)3月に、奈良大学文学部研究員。現在は大学・企業の講師をつとめながら、歴史家・作家として独自の史観にもとづく著作活動をおこなっている。内外情勢調査会講師。中小企業大学校講師。政経懇話会講師。

■ 代表的著作(新刊)

『日本史 至極の終活 偉人の臨終に学ぶ人生流儀』(日本ジャーナル出版・2025)／『リーダーは「戦略」よりも「戦術」を鍛えなさい』(クロスメディア・パブリッシング・2024)／『川路利良 日本警察をつくった明治の巨人』(中央公論新社・2024)／『戦国武将と戦国姫の失敗学 歴史の失敗学3 — 乱世での生き抜く術と仕舞い方』(日経BP・2023)／『教養としての歴史学入門』(ビジネス社・2023)

■ 監修・翻訳等(新刊)

『コミック版 日本の歴史 第91巻 戦国人物伝 織田信長外伝』(企画・構成・監修・ポプラ社・2024)／『読むとんだかラクになる がんばらなかつた逆偉人伝 日本史編』(監修・主婦の友社・2023)

■ テレビ・ラジオ

『先人たちの底力 知恵泉』(NHK Eテレ・不定期出演)／『英雄たちの選択』(NHK BSプレミアム・不定期出演)／『加来耕三の「歴史あれこれ」』(全国のAMラジオ局・レギュラー出演)など

※役職や所属は取材時のものです。

盤石な基盤を築いたデータ経営

徳川家康は、日本史上屈指の戦略家であり、長期的な視野に立った計画と組織運営によって天下を統一しました。彼の成功の鍵は、綿密な情報収集とデータに基づく意思決定にあります。本章では、家康の戦略を「データ活用」という視点から掘り下げ、考察します。

長期戦略の巧みな設計

天下統一のための情報収集と分析

家康の生涯は、忍耐と計画の連続でした。彼は若い頃から他国の動向を詳細に観察し、同盟や戦略を緻密に練っていました。関ヶ原の戦いにおいても、敵対勢力の内部分裂を見抜き、事前に調略を仕掛けることで勝利を手に入れました。

これは、現代のビジネスにおける「市場分析」と「競争戦略」に通じます。企業が持続的に成長するためには、短期的な成果を追うだけでなく、市場の動向や競合の動きをデータとして収集・分析し、中長期的な戦略を構築することが重要です。

組織の安定化とシステム化

江戸幕府の制度設計とデータ活用

家康が築いた江戸幕府は、260年以上続く長期政権となりました。その背景には、幕藩体制と

いう組織構造の確立や、厳格な情報管理がありました。特に、各藩の財政や兵力を把握するために「譜代大名」に監視させるなど、データに基づいた管理体制を敷いたことがポイントです。

これは、現代企業における「データガバナンス」や「システム化」に通じます。データが各部門に分散している状態では、企業全体の経営判断が鈍ります。家康のように、中央集権的な管理体制を導入し、企業全体のデータを統合することで、迅速かつ的確な意思決定が可能になります。

競争優位性の確立

家康が取った競合分析と差別化戦略

家康は戦の前に徹底的に敵を分析し、どのように交渉すれば最も有利になるかを判断しました。例えば、大坂の陣では豊臣家の弱点を見極め、経済封鎖や外交交渉を駆使して、最小限の戦力で勝利を収めました。

これは、現代のビジネスにおける「競争優位



性の確立」に直結します。市場の中で競争力を持つためには、自社の強みを理解し、データに基づいた競争戦略を設計することが不可欠です。マーケットのトレンドを分析し、競合が手を出せない領域で価値を創出することで、持続的な成長を実現できるでしょう。

ビジネスへの示唆

データを活用した長期戦略の重要性

家康の成功は、短期的な利益ではなく、長期的な視点で「情報を蓄積し、活用する」ことにありました。現代企業もまた、膨大なデータを活用しながら、事業の持続的成長を図る必要があります。適切なデータ基盤を構築し、企業が直面する市場の変化を見極めることで、家康のように「揺るぎない競争力」を獲得できるのです。

第3章

伊達政宗

俊敏な意思決定と挑戦のデータ活用

伊達政宗は、戦国時代を生き抜いた独創的な戦略家であり、素早い判断力と大胆な行動で知られています。彼の戦略は、変化の激しい時代において、いかにデータを活用し、機敏に意思決定を行うかの重要性を示唆しています。本章では、政宗の知略をデータ活用の視点から分析し、現代ビジネスに役立つポイントを探ります。

スピード経営の極意

政宗の電光石火の戦略と情報活用

政宗は、迅速な情報収集と決断力で戦を有利に進めました。彼は常に最新の情勢を把握し、敵の動きを読んで先手を打つことで勝利を重ねました。例えば、豊臣秀吉に対しては、武力衝突を避けつつも外交戦略を駆使して独自の地位を確立しました。

これは、現代のビジネスにおける「アジャイル経営」に通じます。市場環境が変化する中で、迅速にデータを分析し、素早く意思決定を行うことが競争優位の鍵となります。

イノベーションと柔軟性

異文化・異国との関係構築とデータ

政宗は、国内だけでなく海外にも目を向け、スペインやメキシコとの交流を試みました。これ

は、情報を積極的に収集し、新たな可能性を探る姿勢の表れです。

現代のビジネスでは、データを活用して新市場を開拓し、顧客ニーズに応じたイノベーションを生み出すことが求められます。政宗のように、新たな情報に敏感であることが成長の鍵となるでしょう。

リスクをチャンスに変える

危機管理と意思決定

政宗は、危機に直面しても柔軟に戦略を変更し、最適な行動を選択しました。これは、データに基づくリスクマネジメントの重要性を示唆しています。

企業も、データを活用することでリスクを先読みし、迅速な対応を取ることが可能になります。危機を乗り越えるためには、常にデータを分析し、適切なアクションを取ることが重要です。



ビジネスへの示唆

データを駆使した 俊敏な意思決定の重要性

政宗のように、市場の変化を素早く捉え、迅速な意思決定を行うことは、企業の競争力を高めます。データを活用し、機敏な経営判断を行うことで、変化の激しい市場で勝ち残ることができるのです。

第4章

データ活用の「天下統一」戦略 両者の強みをビジネスに活かす

徳川家康の「長期的なデータ戦略」と伊達政宗の「俊敏なデータ活用」。
この2つの戦略は、現代のビジネスにおいても大いに参考になります。

家康型 vs 政宗型 データ戦略の違い

家康型

持続的成長のためのデータ基盤整備
(長期的視点)

データを整備し、部門間のデータを統合することで、組織全体で統一的な意思決定を行う。経営層が一貫した方針を持ち、長期的な安定成長を実現する。

VS

政宗型

競争優位を築くための迅速なデータ活用
(俊敏性)

変化に応じて素早くデータを活用し、意思決定をスピードアップ。市場の変動に対応しやすく、迅速な判断でビジネスチャンスをつかむ。

データ活用の成功がビジネスの勝敗を決める—両者を統合するハイブリッド戦略

競争の激しい現在では、長期的な視点を持ちながら、市場の変化に迅速に対応するための俊敏性が必要不可欠です。つまり、「家康型か政宗型か」ではなく、「両者のハイブリッド型」でデータ活用を考えて行く必要があるでしょう。

そのためには、いずれの戦略においても重要な「データ連携基盤」をまずは構築し、そのデー

タをいつでも活用して現状分析を行ったり、今後の予測や洞察が得られるようにするための「データ活用基盤」を整備することが最重要課題です。

家康と政宗の戦略を参考に、企業も自社の強みを活かしたデータ活用を進めることで、競争に勝ち抜くことができるのです。

データ活用を成功させるための ツールと実践法

データ活用を成功させるためには、適切なツールの導入と効果的な実践法が不可欠です。本章では、データ統合、分析、可視化をスムーズに行うためのツールと、それらを活用するための具体的なアプローチを紹介します。

データ活用の課題

企業がデータを活用する際には、以下のような課題が生じます。

データが各部門に分散し、
統合されていない

迅速にデータを活用する
仕組みが整っていない

データの品質や信頼性に
ばらつきがある

これらの課題を解決するために、適切なツールとプロセスの整備が求められます。

データ活用を支えるツール

- iPaaS（統合プラットフォーム）：異なるシステム間でデータを連携し、統合するためのクラウドベースのツール。
- ETL（Extract, Transform, Load）ツール：データを抽出し、変換・統合するプロセスを自動化。
- BI（ビジネスインテリジェンス）ツール：データを可視化し、さまざまな意思決定を支援。
- AI/機械学習ツール：データ分析を高度化し、予測分析を可能にする。

データ活用の実践方法

- ① データの統合と品質向上：データを整理し、正確性を担保する。
- ② リアルタイム分析の導入：迅速な意思決定を可能にする。
- ③ データドリブン文化の醸成：全社的にデータ活用を推進する。

データのバラバラを スルスルに

iPaaS型データ連携基盤

HULFT SQUARE

ハルフト スクエア

セゾンテクノロジーが開発したiPaaS（クラウド型データ連携プラットフォーム）です。古くからあるオンプレミス型のレガシーシステムからクラウド上にあるSaaSまで、さまざまな環境に分散しているデータを自由自在に連携させることができます。

以前にも増してデータ活用のニーズが高まる現在。「HULFT Square（ハルフトスクエア）」を使ってデータ活用の基盤を構築し、「家康と政宗ハイブリッド戦略」でビジネスの持続的な成長と競争を勝ち抜く俊敏性を手に入れませんか？

製品詳細は以下よりご確認ください。
<https://www.hulft.com/service/hulft-square>





まとめ

データ活用で勝ち残るために

本書では、徳川家康と伊達政宗の戦略を通じて、データ活用の重要性について考察してきました。最後に、企業がデータを活用して競争力を高めるためのポイントを整理します。

データ活用の本質

- 長期視点のデータ基盤整備（家康型）
- 俊敏なデータ活用による競争力強化（政宗型）
- ハイブリッド戦略でのバランスの追求

企業が取べきアクション

- ① **データ基盤を強化する**：企業内に散在するデータを統合するためのツールを導入し、データの基盤を構築した上で、データの質を向上させる。
- ② **データ活用のプロセスを最適化する**：データをリアルタイム分析できる BI ツールや過去のデータから予測を導き出す AI などを導入し、迅速な意思決定を実現する。
- ③ **組織全体でデータドリブンの文化を醸成する**：データを活用する意識を経営層から浸透させる。

いかがでしたでしょうか？

徳川家康と伊達政宗。歴史的に名高い両者の知略は、さまざまなデータを礎に洞察し、戦略に落とし込んだものだったことがわかります。

データ活用の成否が、今後のビジネスの成長を左右することは明白。ぜひ彼らの知略をヒントに、自社に適したデータ戦略を構築し、競争に勝ち抜く企業を目指してください。

“データ”を 経営の中心に

企業のデータ活用推進をご支援

セゾンテクノロジー データインテグレーション サービス

セゾンテクノロジーの「データインテグレーションサービス」は、SaaSの導入・データ連携基盤の構築・データ活用のための可視化などをご支援するサービスです。

データを有効活用するために、それぞれの企業にあわせた最適な手順や手法で、散在するシステムやデータをつなげ、データ連携基盤の構築から活用まで幅広くサポートします。

ぜひオンラインの窓口からご相談ください
<https://www.hulft.com/contact/online>



知略対決!

徳川家康 vs 伊達政宗

武将からビジネス成功のヒントを学ぶ

SAISON
TECHNOLOGY

株式会社セゾンテクノロジー
www.hulft.com

お問合せ e-mail marketing@saison-technology.com

- HULFT、その他HULFT関連製品は、株式会社セゾンテクノロジーの登録商標または商標です。
- 記載されている会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。
- 記載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示(TM、®)を付記していません。

このカタログの記載内容は、2025年1月現在のものです。本カタログの記載内容は予告なく変更することがあります。
© Saison Technology Co., Ltd. 2025